

第十四回 (株) USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 17 年 2 月 16 日 16 : 00～
開催場所：(株) USEN 山王パークタワー13F
プレゼンテーションルーム

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、池田憲一、山本武司、渡辺英夫（順不同・敬称略）
放送局側：8 名

議事内容

1. 会社動向についての報告

2. 放送事業についての報告

デジタルコンテンツプラットフォームを目的とし、良質なコンテンツを提供

3. 番組改編に関する報告

春期番組改編の報告（主に AE バンド、チャート系番組を改編）

4. 番組課題

ジャズ系番組について（AE-13 ジャズスタンダード、BF-31 JAZZ モダン、BF-32 JAZZ ヴォーカル）

5. 番組審議

- 主要 3 チャンネル（AE-13,BF-31,BF-32）は飲食店業使用に特化して構成。BGM チャンネルとして積極的に宣伝していく。営業の大きな武器・戦力となるよう、現在飲食店業が「ビジネス」から各オーナーの人生をかけた「ライフ」に移行している現状に対応すべく、業種・形態ごとの BGM 番組を意識すべき。
- AE-13 は一番人気があり、幅広く聴かれている。インスト・ボーカル楽曲がミックスされていて、聞きやすい。
- 聞き流す音楽というより、理解・納得して聴いているファンがいるということを再認識する必要がある。
- 常に危機感を持ち、新鮮且つ自由な開放感を演出してほしい。
- もっと格調ある音楽としてのジャズの位置づけが必要。
- 多様化しているリスナーのニーズに合わせ、もっと多様な楽器を用いた演奏曲を選曲・配信してほしい。
- 番組内で、時間帯によって放送内容を変えるとより効果的。（例えば夜中はピアノ曲のみの配信にするなど。）
- 各シーンに合わせ、使用目的別に番組を構成すると、よりわかりやすいのでは。バーで飲むカクテルがおいしくなるようなピアノ曲などで構成してみてはどうか。
- 新しいメディアの開発において、若者向けになりやすいが、さまざまな年齢層へ年代別にアプローチできる番組構成をしてほしい。特にジャズは、50 代半ばを境に、その前後の世代で志向や受け取り方が全く違っている。
- 全曲の余韻を味わえる曲間は、もう少し長めに取ってもらえるとよい。
- ベースの音が邪魔をしていて聞きにくい楽曲が多いので、構成を再度検討してほしい。
- 現在のモダンジャズはジャズの基本が崩れている。プレイヤーのストーリー性を敬いつつ、原形をとどめたままの良質な楽曲をしっかりと伝えていくことが大切。
- 吸収力を持った番組を作るため、情熱とそれを持った人間の人選を行ってほしい。